
愛し君へ

月光蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛し君へ

【著者名】

Z5907C

【作者名】

月光蝶

【あらすじ】

私は朝の日差しに照らされながら目が覚めた、けれどもこれが私にとっての最後の朝日・・・。

いつもどおりの朝、窓から漏れてくる朝日で身をゆだめて私は今此処にいる。

小さな真新しい思い出の箱に手を掛ければ聞こえてくる少し前の記憶、そこにはいつもいてくれた貴方の声が聞こえてくる、悲しかった時も嬉しかった時も寂しかった時も貴方はいつも私の傍に居てくれた、時にはお互いの寂しさを紛らわせる為にお互いの身を寄せ合い想いのままに抱かれそれに歡喜し、そして快樂を求める夜もあつた。

少し古い小さな箱に手を掛ければ貴方とかけっこをしている私の姿が見える、躊躇こけてしまった私に貴方は恥らいながら手を差し伸べてくれた、その手を握り感じた温かさが今の冷えた私の手を温めてくれるかのように。

最後に古くもなく新しくもない小さな箱に手をかけて開けるとそこには、春の桜吹雪の中貴方は少し照ればがらも私と手をつなぎ絡めあう指が解けないようにしつかり握りそして私の初めてを優しく奪つていった、離れた唇が言葉を紡ぎこれからもずっと一緒に言つてくれた。

思い出に浸つてゐ内にも私は朝日を背中に向け映し出された影を見つめる、影はひとつだけ・・・もう貴方はいない。風が私を優しく撫でて少し気持ちよかつた、一步前に出ると影も遅れづに一步前に出る、もう一步踏み出すと影が半分奪われた、最後にもう一步踏み出すと下には何事も無いかのように動く人や車。

さよならお母さん、さよならお父さん、さよなら皆・・・私は彼に会いに行くね、だからこんな私でも受け止めてください、貴方のことが好きで好きでどうしようもないくらい好きだから・・・そして最後にごめんなさい、貴方の分まで生きることができなくて、

貴方のいない世界にはもつ興味がないから。

「今から会いに行きます。こんな我がままな私だけど貴方のことが好きだから・・・」

私は今何処にいますか？私は今何を見てるのですか？私は今何を考えてるのですか？私は今幸せですか？

暗くて何も見えないそして何も感じれない暗闇の中私は、たつた一人彷徨うかのように小さく丸まり自分の体を抱いてそこにいた。

貴方は今何処ですか？私は今此処にいます。

(後書き)

人はいつかは恋をします、けれども恋とは無慈悲なもので決してどの恋もハッピーエンドでは終わりません、けれども諦めずにまた前を見て歩んでください。

貴方の恋に幸あれ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5907c/>

愛し君へ

2011年1月7日15時43分発行